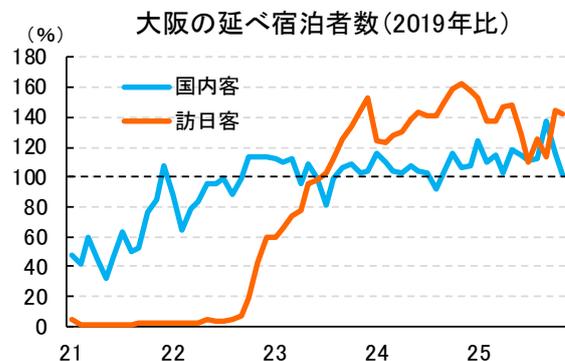
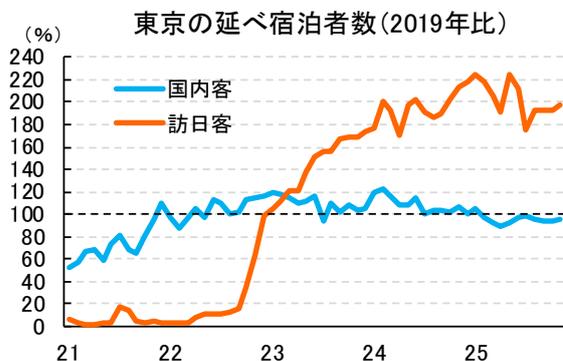
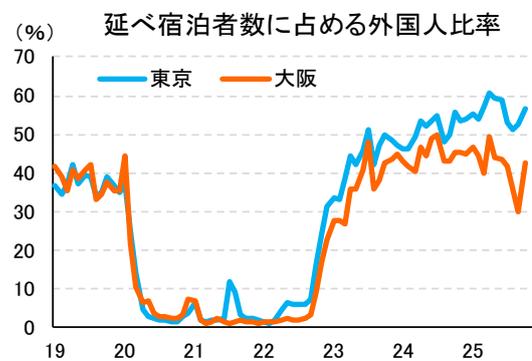
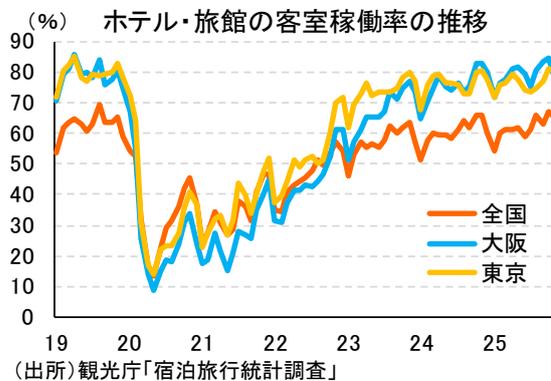


関西の景気トピックス【ホテル稼働率（25年11月）】

- 25年11月の宿泊旅行統計調査（観光庁）によると、ホテルや旅館の客室稼働率は、東京、大阪ともに概ね好調な推移となっている。その水準も80%前後を維持しているが、11月の大阪に限って言えば、10月に大阪・関西万博が閉幕した影響で、前年の水準を下回る形となっている。
- 延べ宿泊者数に占める外国人比率については、東京と大阪の格差が開いている。東京が50%を上回ってさらに上昇傾向にある一方、大阪は40%前後で推移している。これも万博の影響が大きいとみられ、万博期間中は大阪で外国人客によるホテルの利用が減った影響が大きいと考えられる。
- 延べ宿泊者数のコロナ前比（19年比）について、国内客、訪日客の動きをみると、東京と大阪のトレンドには違いがみられる。大阪では万博の開催期間中は外国人客の動きが鈍化した一方、国内客は好調な動きとなった。それに対し、東京は料金の高騰などにより、国内客の動きが鈍い一方、外国人客は増加傾向が続いている。今後は万博の影響が一巡する中、大阪も東京に近いトレンドをたどるとみられる一方、新たに中国の渡航自粛による影響にも注目が集まる。



本件照会先:大阪本社 荒木秀之
 TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp